



■ 機体調達に係るリスク

- 並行運用期間のH-IIA/Bを安定的かつ確実に打上げるためには、最終号機までの部品・材料のまとめ手配が必要となり、H3開発状況によっては平成30年度以降に追加手配が必要となり得る。
- 最終号機までまとめ手配を行う場合、以下のようなリスクを考慮する必要がある。
 - 衛星の打上げ後倒し、打上げ中止などによるH-IIA/Bの余剰。
 - H3開発の遅れ、H3運用前の政府衛星の追加等によるH-IIA/Bの不足。
- 対策としては、リスクの発生要因別に打上げロケットの見直し等により対応することになるが、追加費用・スケジュールの遅延等が発生するリスクを考慮しておく必要あり。

■ H-IIA/Bフェーズアウト処理に係るコスト

- H-IIA/B 最終号機のバックアップ品（アビオ機器、弁類等）の準備コスト
 - 通常の打上げの際は後続号機用のものをバックアップ品に割り当てるが、後続号機の無い最終号機はバックアップ品の手配が必要であり、機体価格の約1/3の費用を要する。そのため、打上げ遅延リスクと準備品の範囲について、今後の機体価格に反映させる必要あり。
- 専用治工具に係るコスト
 - H-IIA/Bのフェーズアウト後は専用治工具が不要となるため、処置についてのコストは、今後の機体価格等に反映させる必要あり。

7. 今後の対応について



■ イプシロンへのシナジー効果対応

- 今年度末頃に実施予定のH3ロケットの基本設計審査の結果を踏まえ、イプシロンへのシナジー適用開発について検討のうえ、プロジェクト化に向けて今後の予算の要求に向け検討を進める。

■ 今後の予定

- H3ロケットの開発作業としては、来年度の詳細設計フェーズへの移行に向けて、基本設計審査の実施を予定しており、宇宙開発利用部会にて審査結果の報告を受けた後、宇宙政策委員会宇宙産業・科学技術基盤部会へ報告を行う。



【参考資料】